

西日本初

平成31年3月14日

記者発表

担当課

県立自然博物館

担当者

主査学芸員 小原

電話

073-483-1777

魚食性恐竜スピノサウルス類の化石を発見！

化石採集家の宇都宮 聡氏によって、湯浅町内の地層からスピノサウルス類の歯化石が発見されました。スピノサウルス類は獣脚類^{じゅうきゃくるい}でありながら魚食性恐竜として知られており、国内では3例目、西日本では初となる上、アジア最古級のスピノサウルス類とも言える大変貴重なものです。この化石は宇都宮氏のご厚意により県立自然博物館に寄贈いただきました。

なお、この化石は平成19年に発見された肉食恐竜の歯に次いで、県内2例目の恐竜化石となります。

化石の概要

名称：スピノサウルス類の歯化石

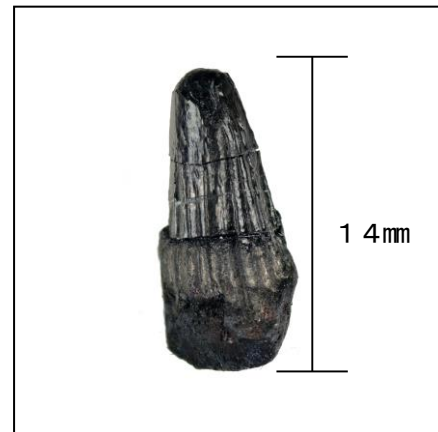
発見場所：和歌山県有田郡湯浅町（湯浅湾沿いの海岸）

地層：湯浅層

推定年代：中生代白亜紀前期（約1億3000万年前）

発見者：宇都宮 聡

発見日：平成30年10月21日



今回発見されたスピノサウルス類の歯化石(部分)

スピノサウルス類とは

獣脚類スピノサウルス科に属する恐竜の総称です。恐竜では珍しく水中で泳ぐことが得意で、主に魚を捕食していたと考えられています。スピノサウルス科にはいくつかの属が含まれますが、特にスピノサウルス属は、体長15mに達する大型恐竜で、背中に帆がある等ユニークな特徴を持つことから恐竜ファンの間でも人気が高く、映画「ジュラシックパーク」シリーズに登場したことで有名です。スピノサウルス類の化石は、以前は主にアフリカ大陸などで発見されていましたが、近年になってタイ王国などの東南アジアからも多く発見されるようになりました。なお、今回発見された化石については、スピノサウルス類の詳しい種類等は不明です。



スピノサウルス類のイメージ
(古生物イラストレーター 川崎悟司氏提供)

発見者

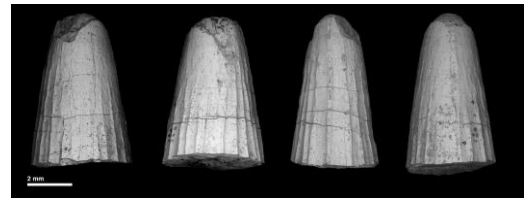
宇都宮氏は、会社勤めのかたわら趣味である化石採集をライフワークとし、九州初の首長竜（サツマウツノミヤリュウ）等、多数の貴重な大型爬虫類等の化石を発見した実績があります。また、著書に「クビナガリュウ発見!」、「日本の恐竜図鑑」（共著書を含む）等があります。

発見場所

平成19年に肉食恐竜の歯化石が発見されたのと同じ場所で、海岸の転石中から発見されました。現在、付近一帯は道路沿いの崖も含めてほとんどがコンクリートで覆われていたり、深い藪に覆われている状態です。恐竜化石を含んだ転石は、コンクリート護岸される前に崖から崩れ落ちた岩塊である可能性が高いと考えられます。

同定の根拠

今回発見された歯化石は、不完全ではあるものの円錐形であったと推測され、表面にはっきりとした縦方向の条線が確認できます。さらに、東京都市大学の中島保寿准教授に電子顕微鏡による断面の微細構造の観察・分析を依頼した結果、歯の表面のエナメル質が厚いことなどの特徴が見られました。これらの特徴の組み合わせは、他の恐竜やワニなどでは確認されておらず、スピノサウルス類でのみ確認されていることから、この化石はスピノサウルス類の歯と同定されました。



電子顕微鏡写真（側面4方向） 中島保寿氏提供

今回の発見の学術的意義

スピノサウルス類の化石としては国内では3例目、西日本では初となる上、アジア最古級とも言える大変貴重なものです。

国内1例目及び2例目のスピノサウルス類の化石は、群馬県神流町からの発見ですが、この場所は地帯区分で言えば和歌山県湯浅町と同じ西南日本外帯（日本最大の断層である中央構造線より南側）にあたります。その一方で、西南日本内帯（中央構造線より北側）では、福井県勝山市や兵庫県丹波市等から近年多量の恐竜化石を産出しているにもかかわらず、まだ1例もスピノサウルス類の化石の報告がありません。今回の発見は、白亜紀前期には、より北方に位置していた内帯と南方にあった外帯で恐竜の群集が異なっていた可能性があるという仮説を裏付ける証拠の1つとなり、大変重要です。

また、日本列島の外帯と東南アジアからのスピノサウルス類化石の産出は、両者が白亜紀前期には近い位置関係にあったことを示しています。

今後の予定

化石の修復後、県立自然博物館での展示を予定しています。（2019年6～9月頃）